

ヒトリシズカ

幽玄の寡黙

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

知ってる人ならタイトルでわかるあの歌の3次創作です。

歌を聴いているときに自然とこんな感じの物語が浮かんできたので書きました。

うp主の勝手な思い込みで書いたのでご了承ください。

いい歌ですよ

ようつべにUpされてた某漫画を見ると更にいいですよ

このssを見るときは是非『ヒトリシズカ』を聴きながら読んでみてください。

目次

ヒトリシズカ

1

ヒトリシズカ

― チュンチュン

朝、目が覚める

窓を開ける

風が入ってきた

・・・

・・・着替えよう

朝ご飯は焼き魚と味噌汁

一人で食べている

鳥の声と食事の音だけが聞こえる

・・・

フヨフヨ

闇を纏い、森の上を飛んでいる

「おい、ルーミア」

・・・氷妖精

「これから皆で探険に行くんだ、ルーミアも来いよ」

・・・遠慮しとく、そんな気分じゃ無い

「そうか残念だ、ならまた今度行くか」

「じゃあなルーミア」

ええ、また

・・・

夕暮れ時

部屋は闇に染まり始めている

私は、明かりも付けずに、ベッドの上で膝を抱えている

もう、この空間にも馴染んできた

部屋を見渡す

机、本棚、ベッド、

あの時から家具も配置も変わっていない

床も綺麗で何も変わらないように見える・・・

・・・

辺りはどす黒い赤色で染まっていた

鉄の臭いがする

・・・ここは

部屋の中央に彼女は立っていた

目の前には、何かの塊があつた

肉塊のように見える、まるで・・・

っ!

その場に崩れ落ち、両手で体を抱き抱えた

俯いて震えている

いつの間にか目の前に誰かが立っていた

「ルーミア」

っ、あ、ああっ

ごめん・・・なさい・・・、ごめんなさい・・・ごめんなさい、ごめんなさいっ

「・・・」

私がつ、私が貴方をつ

「ルーミア」抱き

っ!?

私を抱きしめてきた。

「ルーミア、君は悪くない」

で、でも……

「私が弱かったからこうなってしまったんだ」

そんな……こと……

「私のせいで辛い思いをさせてしまったね、ごめん」

う……うう……

「私はもう死んでしまったけど、君はまだ生きている」

「明日がある」

「希望がある」

「私の代わりに生きてくれ」

「楽しんでくれ」

「君が笑っていてくれるのが、私の幸せだから」

……ぐす……ひっく……

「だから、涙を拭いて、ほら」

……うん

「最後におまじないをしてあげる」

そういつて私の髪に赤いリボンを結んだ。

・・・これは

「うん、よく似合う」

「このリボンが、君を守ってくれる」

・・・ありっ・・・がとっ・・・

泣きながら、抱きつく

「ルーミア」

「愛しい・・・ルーミア」

「どうか、私の分まで」

「幸せに・・・」

―チュンチュン

・・・っ

目が覚める

いつもの部屋

いつもの床

いつものベッド

・・・夢？

そう思い、ふと頭に手を伸ばすと
あ、

リボンが結ばれていた。

赤いリボン

あの人 gave くれた、リボン

・・・ぎゅっ

窓を開ける

風が入ってきた

気持ちのいい風が

・・・着替えなきや

いつもの黒い服に身を包み、赤いリボンを結ぶ

扉を開ける

朝日が眩しい

「あ、ルーミア」

誰かがこえをかけてきた

「これからあそこのお屋敷に行くんだ。ルーミアも来いよ」

「ええ、いいわよ」

「じゃあ早速出発だ。あのお屋敷は、あたしのもんだ！」

彼女は前よりも明るい表情で外へ出た。

「そーなのかー」